

# 葉菜類の底面給水育苗の普及

農業技術振興センター農業革新支援部

## 【普及活動のねらい・対象】

県では、水田の高度利用や県産野菜の自給率向上のため、水田野菜を推進しており、機械化できるキャベツを始めとした露地野菜の生産が増加しています。土地利用型の大規模経営や集落営農など多様な担い手への推進には、育苗の分業化や苗の安定供給も重要な課題となっています。

そこで、野菜苗の生産体制の整備を図るため、野菜振興に意欲的なJAに底面給水育苗技術の導入を支援しました。

## 【普及活動の内容】

県農業技術振興センターの開発技術である「底面給水育苗」は、育苗架台に不織布などで保水層をつくり、その上にセルトレイを並べ、底面から給水を行う育苗方法です。この育苗法の特徴は、均一な苗生産ができることと、かん水作業が大幅に削減できることです。

JAでの技術の導入については、農産普及課、JAと検討し、省力化、苗の低コスト化が図れることをメリットにJAレーク伊吹とJAこうかで導入されることになりました。

現地での導入にあたり、育苗床の設置、かん水方法など技術のポイントについて技術支援を行いました。

## 【普及活動の成果】

2JAでキャベツ、ハクサイ、ブロッコリーの苗が40万本（約11ha分）生産され、水稻大規模農家、集落営農組織および野菜生産農家に供給されました。JAの担当者からは、「移植機も支障なく利用でき、生産者からクレームもなかった」「キャベツが25日、ハクサイが20日で購入苗並に仕上がり、生産者の納得できる苗になった」と好評となりました。今後、ほかのJAでも導入の検討がされており、この技術の普及・拡大が期待できます。今後も農産普及課、関係機関と連携しながら、野菜苗の安定供給体制の整備を支援を継続します。

表 底面給水育苗による野菜苗生産量

JA名	品目	育苗枚	移植面積
レーク伊吹	ブロッコリー	496枚	1.5ha
こうか	キャベツ	1,834枚	10.3ha
	ハクサイ	857枚	
	ブロッコリー	113枚	
合計		3,320枚	11.8ha

